

アセアン諸国の市場および知財状況分析(3)

IPNJ国際特許事務所 所長弁理士 乾 利之
東京工業大学 名誉教授 田中 義敏

9. 分野別の特許・商標・意匠の出願状況の横断比較

9.1 分野別比較のための特許・商標・意匠の横断分類

事業分野ごとに、各国における特許、商標および意匠の出願状況を比較するため、表9に示す特許・商標・意匠の横断分類表を作成した。

分野(事業分野)は商標分類(国際分類)を参考に設定し、特許についてはWIPO Statistics Databaseにおける技術分類IPC8-Technology Concordanceの分類、商標については国際分類、意匠についてはロカルノ分類をそれぞれ対応する分野に振り分けた。本分類により、事業分野ごとの特許・商標・意匠の出願状況を調査することを試みた。

9.2 分野別の特許・商標・意匠の出願状況の横断比較

表9の分類表に基づいて、2014~2018年における特許・商標・意匠出願の件数を分野ごとに調査・算出するとともに、各国における各分野の出願件数の割合を算出した結果を表10に示す。これにより、分野別の特許・商標・意匠の出願状況の横断比較を試みた。なお、国、年によっては抽出される件数情報がない場合や一部のみ得られた場合がある。

以下、表10に示す調査結果に基づいて、件数が多い国を中心に各分野における特許・商標・意匠の出願状況等についての傾向を簡単に述べる。

化学品・化粧品・薬剤：特許出願(%)は最も高いレベルであり、商標出願(%)も高く、意匠出願(%)は低い。特許出願(%)については、調査が可能であったフィリピン、マレーシア、シンガポールのいずれの国も高く、商標出願(%)についてはタイ、ベトナム、カンボジア、フィリピンが高い。

・医療系：特許出願(%)は高く、商標出願(%)および意匠出願(%)は低い。特許出願(%)についてはシンガポール、フィリピンが高い。

・飲食品：商標出願(%)は高く、特許出願(%)および意匠出願(%)は低い。商標出願(%)については、インドネシア、タ

イが高い。

・日用品・事務用品・装飾品：意匠出願(%)は非常に高く、商標出願(%)も高く、特許出願(%)は低い。意匠出願(%)についてはシンガポールが高く、次いでタイ、フィリピンが高い。商標出願(%)については、いずれの国も同程度で高い。

・機械・工具：特許出願(%)・意匠出願(%)は中程度であり、商標出願(%)は低い。意匠出願(%)についてはタイが高く、特許出願(%)・商標出願(%)についてはマレーシアが高い。

・電子機器・装置：意匠出願(%)は非常に高く、特許出願(%)および商標出願(%)も高い。特許出願(%)・商標出願(%)・意匠出願(%)はいずれもシンガポールが高い。

・自動車等の乗り物：特許出願(%)および意匠出願(%)は比較的高く、商標出願(%)は低い。特許出願(%)はいずれの国も同程度であり、意匠出願(%)についてはブルネイ、マレーシア、タイが高い。

・土木・建築系：特許出願(%)および意匠出願(%)は比較的高く、商標出願(%)は低い。特許出願(%)についてはマレーシアが高く、意匠出願(%)についてはフィリピン、タイが高い。

・被服・繊維系：商標出願(%)および意匠出願(%)は比較的高く、特許出願(%)は低い。商標出願(%)・意匠出願(%)についてはインドネシア、タイが高い。

・娯楽品系・その他：いずれも比較的低い。商標出願(%)についてはマレーシアが高い。

・ネットビジネス・販売：商標出願(%)は比較的高く、特許出願(%)および意匠出願(%)は低い。商標出願(%)についてはベトナムが高い。

・通信・システム系：特許出願(%)は高く、商標出願(%)は低い。特許出願(%)についてはシンガポール、マレーシアが高い。

・その他サービス業：商標出願(%)は非常に高く、意匠出願(%)も高く、特許出願(%)は低い。商標出願(%)についてはシンガポール、フィリピン、ブルネイ、マレーシア、ベトナムが高い。意匠出願(%)についてはベトナムが非常に高く、

次いでインドネシアが高い。

10. 各国における出願から権利化までの平均期間

どの国に出願するかを検討する場合には、当該候補地はその時期に魅力ある市場になるか、さらには自社としてどの時期までに権利化されている必要があるかといったことを考慮しなければならない。つまり、いつ出願すべきか（出願件数を増加させるべきか）がポイントであり、これには市場成長の予測と共に、出願から権利化までの期間（以下、権利化期間）が重要である。そのため、各国における平均権利化期間を調査した。その結果を表11に示す。

表11に示すように、商標および意匠においては出願から比較的短期間で登録されるが、特許においては全体的に長期間であり、国ごとのばらつきもあることがわかった。特許出

願については、平均権利化期間が約4～8年であり、国ごとのばらつきに加えて出願ルート（パリルート、PCT）ごとに異なるため、市場の成長時期と共に、登録までの期間を考慮した出願計画が必要であると考えられる。

11. どの国にどのような出願をすべきなのか？

2020年9月号から3回にわたって各種視点で、アセアン各国の市場性および知財状況について調査・整理を行ってきた。

「アセアンにおいてどの国にどのような出願をすべきなのか？」については、企業ごとに事情や戦略が異なるため、画一的に回答できるものではないが、上述した情報・視点等は、各国への出願を検討する際に活用できるものであると考える。

以下に「アセアンにおいてどの国にどのような出願をすべきなのか？」を検討する際の注意点等をメモする。

表9 分野別比較のための特許・商標・意匠の横断分類

分野	特許	商標	意匠
化学品・化粧品・薬剤	有機化学、化粧品、高分子化学、ポリマー、基礎材料化学、無機材料、冶金、表面加工、マイクロ構造、ナノテクノロジー、化学工学、製薬	第1類、第2類、第3類、第4類、第5類	第28類
医療系	医療機器、バイオテクノロジー、生物材料分析、	第10類	第24類
飲食品	食品化学	第29類、第30類、第31類、第32類、第33類	第1類
日用品・事務用品・装飾品	その他の消費財	第6類、第14類、第16類、第18類、第20類、第21類、第27類	第3類、第4類、第6類、第7類、第11類、第19類、第30類、第31類、第32類
機械・工具	機械加工器具、ハンドリング機械、その他特殊機械	第7類、第8類	第8類、第15類
電子機器・装置	電気機械、電気装置、電気エネルギー、音響・映像技術、基本電子素子、半導体、光学機器、制御	第9類、第11類	第10類、第13類、第14類、第16類、第18類、第23類
自動車等の乗り物	運輸、エンジン、ポンプ、タービン、熱処理機構、機械部品	第12類	第12類
土木・建築系	土木技術、環境技術	第17類、第19類	第25類、第26類
被服・繊維系	繊維、製紙	第22類、第23類、第24類、第25類、第26類	第2類、第5類
娯楽品系・その他	ゲーム、家具	第13類、第15類、第28類、第34類	第17類、第21類、第22類、第27類、第29類
ネットビジネス・販売	ビジネス方法	第35類	第20類
通信・システム系	コンピューターテクノロジー、電気通信、デジタル通信、計測	第38類	
その他サービス業		第36類、第37類、第39類、第40類、第41類、第42類、第43類、第44類、第45類	第9類

特許の分類：WIPO Statistics Databaseにおける技術分類 IPC8 -Technology Concordance

商標の分類：国際分類

意匠の分類：ロカルノ分類

〈どの国?〉

主に市場性（市場規模・成長性）に基づいて、事業進出国・出願国を検討する。併せて、自社拠点や競合他社の拠点等の有無も考慮する。

○市場性（市場規模・成長性）

①GDPにおいては、インドネシアが非常に高い。全体傾向としては、インドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナム、シンガポールが高く、成長性の面ではインドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナムが注目される国である。

②購買力においては、シンガポール、ブルネイが非常に高い。全体傾向としては、ブルネイ、シンガポール、マレーシア、タイが高く、成長性の面ではこれらに加え、インドネシア、ミャンマーが注目される国である。

③人口においては、インドネシアが非常に高い。全体傾向としては、インドネシア、フィリピン、ベトナム、タイ、ミャンマーが高く、成長性の面ではインドネシア、フィリピン、ベトナム、ミャンマーが注目される国である。

〈どのような出願（優先して保護すべき対象）?〉

事業進出国・出願国等の国ごとに優先すべき出願をまとめ

た。また、企業の事業分野ごとに優先すべき出願の参考となる件数情報をまとめた。全般的に、日本と比べて商標および意匠の優先度が高い点は留意すべき点である。

○国視点

- ・インドネシア、シンガポール、タイおよびベトナム：特許・商標・意匠出願のいずれも。
- ・マレーシア：特許出願の検討を中心に、併せて商標・意匠出願。
- ・フィリピン：商標・意匠出願を中心に、併せて特許出願
- ・ブルネイ、カンボジアおよびラオス：主に商標出願

○企業の事業分野視点（数分野を抜粋）

- ・化学品・化粧品・薬剤：特許出願(%)は最も高いレベルであり、商標出願(%)も高く、意匠出願(%)は低い。
- ・医療系：特許出願(%)は高く、商標出願(%)および意匠出願(%)は低い。
- ・飲食品：商標出願(%)は高く、特許出願(%)および意匠出願(%)は低い。
- ・日用品・事務用品・装飾品：意匠出願(%)は非常に高く、商標出願(%)も高く、特許出願(%)は低い。

表10 分野別の特許・商標・意匠における出願状況の横断比較

	特 許									商 標									意 匠								
	BN	KH	ID	MY	PH	SG	TH	VN	BN	KH	ID	MY	PH	SG	TH	VN	BN	KH	ID	MY	PH	SG	TH	VN			
化学品・化粧品・薬剤	—	—	—	36%	40%	32%	—	—	13%	20%	15%	15%	18%	12%	21%	20%	1%	—	2%	3%	4%	3%	2%	1%			
医療系	—	—	—	7%	10%	13%	—	—	1%	1%	1%	2%	1%	2%	1%	1%	3%	—	2%	2%	3%	3%	2%	1%			
飲食品	—	—	—	2%	4%	1%	—	—	14%	17%	19%	11%	13%	10%	18%	13%	0%	—	0.3%	1%	0.4%	0.4%	0.5%	0.3%			
日用品・事務用品・装飾品	—	—	—	2%	3%	2%	—	—	12%	10%	10%	7%	10%	11%	11%	9%	14%	—	22%	19%	25%	35%	26%	22%			
機械・工具	—	—	—	9%	8%	7%	—	—	3%	3%	3%	9%	3%	3%	3%	3%	3%	—	7%	7%	5%	5%	9%	7%			
電子機器・装置	—	—	—	12%	10%	14%	—	—	12%	9%	7%	4%	10%	13%	9%	8%	10%	—	18%	25%	15%	27%	13%	15%			
自動車等の乗り物	—	—	—	5%	5%	4%	—	—	4%	3%	2%	0.1%	3%	2%	2%	2%	32%	—	9%	12%	11%	5%	12%	7%			
土木・建築系	—	—	—	8%	4%	6%	—	—	1%	2%	2%	3%	2%	1%	2%	2%	14%	—	9%	7%	12%	5%	10%	9%			
被服・繊維系	—	—	—	1%	1%	1%	—	—	6%	8%	10%	6%	6%	5%	8%	5%	1%	—	10%	6%	6%	4%	8%	7%			
娯楽品系・その他	—	—	—	2%	2%	1%	—	—	3%	4%	3%	18%	3%	2%	2%	2%	9%	—	4%	5%	3%	4%	4%	2%			
ネットビジネス・販売	—	—	—	1%	2%	3%	—	—	7%	7%	7%	3%	8%	9%	6%	13%	1%	—	1%	1%	1%	1%	1%	0.3%			
通信・システム系	—	—	—	12%	9%	14%	—	—	3%	1%	1%	1%	2%	2%	1%	1%	—	—	—	—	—	—	—	—			
その他サービス業	—	—	—	2%	3%	2%	—	—	22%	15%	19%	21%	22%	28%	16%	21%	10%	—	17%	12%	14%	8%	12%	28%			

略称：BN ブルネイ、KH カンボジア、ID インドネシア、MY マレーシア、PH フィリピン、SG シンガポール、TH タイ、VN ベトナム
WIPO Statistics Databaseより抽出。各数値(%)は2014～2018年における件数に基づいて算出した。

注：国、年によっては件数情報がない場合がある。

ミャンマーは制度がないため、本調査の対象外である。ラオスの特許・商標・意匠の分類・区分ごとの件数情報は得られなかった。

特許：BN、KH、ID、TH、VNの分類ごとの件数情報は得られなかった。

商標：BN：2017年のみ、KH：2014年のみ、ID：2014～2016、2018年、SG：2015～2018年。

意匠：KHの分類ごとの件数情報は得られなかった。BN：2017年のみ。

- ・電子機器・装置：特許出願(%)および意匠出願(%)は非常に高く、商標出願(%)も高い。
- ・自動車等の乗り物：特許出願(%)および意匠出願(%)は比較的高く、商標出願(%)は低い。
- ・通信・システム系：特許出願(%)は高く、商標出願(%)は低い。

〈出願時期?〉

事業活動が開始された時点で一定数の知財権を確保できていることが望ましい。アセアンにおいては、出願から登録までの平均期間が比較的長いので、登録までの期間を考慮した出願活動を行う必要がある。

○権利化期間

- ・特許：約4～8年／商標：約1～2.5年／意匠：約0～3.5年
- ・権利化期間が長い国

- ① 特許：タイ (8.3年)、マレーシア (6.8年)
- ② 商標：インドネシア・タイ・ベトナム (2.6年)
- ③ 意匠：タイ (3.5年)、ベトナム (2年)

以上、アセアンにおける市場状況および知財状況の分析結果を参照し、限られた活動資源を有効に配分して、事業活動に寄与する知財活動が展開されることを期待する次第である。

12. 友情あふれるパートナーシップの構築

アセアンに事業進出している日本企業は、日々目まぐるしく進化・成長するアセアンの市場で起こるさまざまな制度改正や実務慣行の変化に触れていることだろう。しかし、アセアン知財庁間においてすでに、アセアン特許審査協力(ASPEC)

がスタートして着実に発展しつつあることを知らない日本企業も多いのではないかと思う。日本国内では、「アセアンへの出願はまだこれから」という声を耳にすることもある。実は、多くの日本企業がアセアンのスピーディーな動きに追いついていないのではないだろうか。現に、アセアンは、日本だけでなく、米国、欧州、中国、韓国を幅広く相手にして、アセアングループとしての発展に向けた存在感を見せてきている。

今後は、これまでの支援一辺倒の意識ではなく、相互理解に基づくパートナーシップの構築に向けて真摯に共に手をつないで歩いていく時代になっているのではないだろうか。

〈参考文献〉

外務省アジア太平洋局地域政策課 (2016) 「目で見えるASEAN—ASEAN経済統計基礎資料—」
 特許庁 (2017) 「国内外の出願・登録状況と審査・審判の現状」『特許行政年次報告書2017年版』
 三菱UFJリサーチ&コンサルティング (2016) 「調査レポート日本経済の中期見通し (2015～2030年度)」 p.48
 外務省ウェブサイト「ASEAN (東南アジア諸国連合) 概要」〈http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asean/page25_001325.html；アクセス (2018年5月11日)〉
 財務省貿易統計 〈http://www.customs.go.jp/toukei/suii/html/time_latest.htm；アクセス (2018年5月11日)〉
 WIPO Statistics Database 〈<https://www.wipo.int/ipstats/en/>；アクセス (2020年9月21日)〉
 日本貿易振興機構 (2012) 「アセアン・インド知財保護ハンドブック」
 日本貿易振興機構 (JETRO) バンコク事務所 知的財産部 (2020年3月)、「ASEAN6カ国の産業財産権データベースから得られる統計情報」
 乾利之「アセアンにおいてどの国にどのような出願をすべきなのか？」日本知財学会誌14巻2号

表11 各国における平均権利化期間

		インドネシア	マレーシア	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム
特許	全体	3.8	6.8	5.7	4.0	8.3	5.4
	PCT	3.9	6.6	5.8	3.9	6.2	5.6
	パリルート	3.7	7.5	3.9	4.5	9.5	5.6
	国内	3.9	7.5	5.1	4.4	10.3	3.7
商標	全体	2.6	2.1	1.1	1.5	2.6	2.6
意匠	全体	1.6	1.4	0	0.6	3.5	2.0

単位：年

(参考) 日本貿易振興機構 (JETRO) バンコク事務所 知的財産部 (2020年3月)、「ASEAN 6カ国の産業財産権データベースから得られる統計情報」より以下を抽出

特許：2019年に登録された特許案件の出願から登録までの平均期間

商標：2016～18の各年に登録された登録案件の出願から登録までの平均期間⇒3年分の平均値を算出

意匠：2016～18の各年に登録された登録案件の出願から登録までの平均期間⇒3年分の平均値を算出

※フィリピン：出願日=登録日のため0年